

業績評価シート

(文化事業部門)

【育成創造事業】

1	とっとりの芸術宅配便事業……………	【1次評価】	1	頁～
		【2次評価】	5	頁～
2	鳥取県青少年郷土芸能の祭典2008……………	【1次評価】	9	頁～
		【2次評価】	13	頁～
3	鳥取県出身のアーティストによるコンサート こどもの楽園V……………	【1次評価】	17	頁～
		【2次評価】	21	頁～
4	第2回知事賞受賞者コンサート……………	【1次評価】	25	頁～
		【2次評価】	29	頁～
5	鳥取県演劇創造事業……………	【1次評価】	35	頁～
		【2次評価】	39	頁～

【鑑賞事業】

1	宝塚歌劇星組公演……………	【1次評価】	41	頁～
		【2次評価】	43	頁～
2	鳥取県立県民文化会館 開館15周年記念事業 松竹大歌舞伎……………	【1次評価】	49	頁～
		【2次評価】	53	頁～
3	東京演劇集団「風」 Touch～孤独から愛へ……………	【1次評価】	59	頁～
		【2次評価】	61	頁～
4	人形劇団クラルテ「11ぴきのねこ ふくろのなか」 ……	【1次評価】	67	頁～
		【2次評価】	69	頁～

業績評価まとめ

(文化事業部門)

【育成創造事業】

1	とっとりの芸術宅配便事業……………	1	頁
2	鳥取県青少年郷土芸能の祭典2008……………	2	頁
3	鳥取県出身のアーティストによるコンサート こどもの楽園V……………	3	頁
4	第2回知事賞受賞者コンサート……………	4	頁
5	鳥取県演劇創造事業……………	5	頁

【鑑賞事業】

1	宝塚歌劇星組公演……………	6	頁
2	鳥取県立県民文化会館 開館15周年記念事業 松竹大歌舞伎……………	7	頁
3	東京演劇集団「風」 Touch～孤独から愛へ……………	8	頁
4	人形劇団クラルテ「11ぴきのねこ ふくろのなか」 ……	9	頁

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	とつとりの芸術宅配便事業		助成	文化庁			
目的・内容	年間を通じて、県内の小・中学校、特別支援学校、公民館等に県内の文化活動者を講師として派遣し、ワークショップ、コンサート等を実施する。多感な時期の子ども達に文化芸術活動を体験させることで、子どもの健全な育成と将来の文化芸術活動の担い手、観客となる人々の育成、或いは心の健康の向上を図る。 「改革のための基本方針」【使命】の「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」「多彩な人材育成とキャリア開発」「子どもの文化芸術活動の推進」、【事業計画の柱】の「学校との連携事業をはじめとする子どもや青少年のための文化芸術活動の充実」「地域の文化活動者との協働による自主企画の事業推進」「人材育成の為の機会の提供」を達成するために実施する。						
開催日時	平成20年6月～平成21年2月						
会場	県内小中学校、特別支援学校、公民館等						
入場料・参加費	無料						
集客状況	総体験者数	8,264名	設定席数	—			
事業費状況	予算額	収入	0円	支出	5,797,000円	収支比率	0%
	決算額	収入	1,057,000円	支出	3,179,669円	収支比率	33%
来場者アンケート (主なもの)	<p>〔児童・生徒〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな声だなと見とれてしまいました。 ・演奏を生で聞くのは初めてなので、今日の演奏は大切な思い出にしたいです。 ・文化祭があるので、参考にしようと思いました。 ・途中からノリノリになって、今を楽しもうと必死でした。 ・僕たちはもうすぐ卒業ですが、これからの子に見せてあげてください。 <p>〔先生〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふだんあまり聞く機会のないクラシック音楽に親しめ嬉しく思いました。 ・体育館の隅々に響き渡る美しい歌声に感動してしまいました。 ・バラエティに富んだプログラムで、楽しい時間を全校で過ごせた。 ・生徒の心の成長に役立ったと思います。 ・子ども達は初めTの体験でしたが、達成感を味わうことができたと思います。 ・笑顔が多く、やってみたいと手を上げる子があったことを嬉しく思いました。 						
1次評価 (内部)	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は6年目であるが、実施校等から好評を得ており、当年度の60回の実施となった。ただし、前年対比では、25回となった。 ・生徒数130名以下の小学校からの希望が多かった(全60回のうち37回)。市内中心部より郊外の学校において、芸術体験の機会が少ないという面を、本事業がその補完に役割となっていると思われる。 ・ジャンルによって希望数の差異が著しいが、主にミュージカルやヒップホップダンス、和太鼓など体験型にニーズがある様である。 ・事業開始年から6年継続の申込が7件、5年連続が7件、新規申込が8件あり、定着と広がりを得つつある <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未実施学校への実施推進(過去3年間の未実施率・・・小学校39.9%、中学校81.5%、特別支援学校0%) 						
2次評価 (財団評議員)	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の良さは伝わってくる。容易に鑑賞できる料金設定も良かったと思う。若い層の愛好者の育成に繋がったと思う。 ・学校の要望に応じて芸術活動の技術指導を行う専門家を派遣する事業とすれば、(対応可能なジャンルが限定的なこと以外は)、現状の目標、内容、運営とも必要十分と思われる。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化人口をつなげるためには、次の仕掛け、専門的なアドバイスが出来るコーディネーターが必要。 ・学校と講師の間をつなぎ、より効果的な体験事業を展開していくためには、学校における芸術教育の課題、子どもの芸術体験の手法と思想に精通したコーディネーターの育成が求められる。 ・5年を経て見直しは必要。未実施校へのアドバイス等が行なえる専門性。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も未実施の学校にも積極的に働きかけ、教育委員会との連携の強化を図る。 ・プログラムに関して、学校の希望内容を聞くだけや、講師にお任せではなく、財団としても質の担保の調整ができるスキルを身に付ける。 						

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	鳥取県青少年郷土芸能の祭典2008		助成	文化庁			
目的・内容	郷土芸能の素晴らしさを広く県内に伝え、地元の郷土芸能を支える県民を増やすとともに、後継者育成と郷土芸能の活性化を図ることを目的に、平成15年度から鳥取県総合芸術文化祭の一環として実施。県内郷土芸能活動者で構成される実行委員会を組織し、協働で企画運営を行う。 【使命】「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」「子どもの文化芸術活動の推進」 【事業計画の柱】の「文化活動実践者との協働による自主企画と自主制作の事業推進」「郷土芸能活性化のための事業推進」「鳥取県総合芸術文化祭の連携推進」「人材育成のための機会の提供」						
開催日時	平成20年10月19日(日) 開演14:00						
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール						
入場料・参加費 (友の会)	一般500円 (400円)	高校生以下 無料(整理券)					
集客状況	入場者数	833名	設定席数	1,942席			
			集客率	42.8%			
事業費状況	予算額	収入	440,000円	支出	5,660,000円	収支比率	7.8%
	決算額	収入	627,200円	支出	5,064,510円	収支比率	12%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も見た郷土芸能ではあるけれど、場所によってまた趣きが違い、今日は照明もととてもよかった。何よりこれからの鳥取を青少年で作りに上げて欲しい。最後の浦富八景の音楽はすばらしかったです。 ・2才半の息子が、おとなしく座ってくぎづけ状態で演目を見ていたのには驚きました。楽しかったそうです。アンパンマンやディズニーだけでなく芸能に触れさせるのもいいなと思いました。 ・精魂こめた結果を発表された各チームの出演者、指導者に敬意を払いおしみなき賛辞をささげたいと思います。今年初めてです。鳥取県の誇りとも言えるすばらしい演出でした。次回が楽しみです。 ・青少年が伝統をうけついでいる姿に感動。古い物の良さをもっともっと地域で広げる運動が出来れば…。資金援助も大切。 ・開始を早くして早めに終了して欲しい。 ・開始時刻が中途半端。演目の間に知事の挨拶が入るのは情熱をこわす。 ・子ども達の“一生懸命”“ひたむきさ”がひしひしと伝わってきました。これからは是非郷土芸能を伝承して頂きたい。最後の朗唱漢詩は長すぎる、一考を要す。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演団体の演目はもとより、創作郷土芸能についても高い評価を得ることができた。また、初めて郷土芸能の公演を鑑賞したという方がアンケート回答で40%を超えていること祭典に対する好意的な意見が多数あり、郷土芸能を伝え、支援する県民を増やすとともに、活性化を十分に図ることができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業がスタートした頃と比べ、過去最少であり、ここ数年減少傾向にある。 ・実行委員長候補の選定に時間を要するなど事業の立ち上げが遅いため、様々な進捗に遅れが発生し広報などに影響がでた。 ・郷土芸能に取り組んでいる子どもの団体数が減っており、埋もれている郷土芸能を掘り起こすなど新たな取り組みが必要。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総体的に熱意はみられる。 ・「事業概要」「目標設定」も充分な事業内容であった。出演者が伝統芸能に思いを馳せていることが、演技に表れていて頼もしかった。 ・継承事業の難しさはあるが、新たな推進体制で取り組みで、それなりの成果はあったと思う。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明らかに練習不足とか、指導のあいまいなところも見受けられた。 当初の熱気がやや弱くなった。創作芸能にも価値はあるが、安易な取り組みは、厳に慎むべきである。 ・創作郷土芸能に違和感があり、西洋楽器が必要か疑問。日本の芸能の本質を理解した事業推進。 ・若者や現役の参加が少ない。子どもたちの鑑賞者の増加。 ・伝承活動の意識は県民に高まりつつあるので、PRIに工夫が必要 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・準備取り組みについて、早目に作業を進め、スケジュール管理もしっかり行う。 ・構成等についても、実行委員会内で時間をかけて議論を行なう。 ・観客数が減少の問題点を分析して、鑑賞者が増えるための新たな手立てを行なう。(出演団体、実行委員に頼りがちな集客を見直し邦楽・古典芸能関係者への働きかけ、青少年の鑑賞者拡大など) ・出演者のレベルアップ 						

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業	
事業名	鳥取県出身のアーティストによるコンサート こどもの楽園Ⅴ		助成	文化庁
目的・内容	鳥取県在住・出身のアーティストによって、鳥取県発のコンサートを開催する。そして、鳥取県出身のアーティストの存在を知らしめ、県民の皆様にも音楽文化の素晴らしさを啓発し、音楽文化を豊かにするとともに、アーティストたちと共に音楽の喜び（演奏と鑑賞）を作り上げ、感動を共有するものとする。またクラシックを子どもたちがより身近なものと感じ、その素晴らしさ、楽しさを感じることでできる機会を提供し、親子が共に文化芸術に触れ合うことを目的とする。 【使 命】多彩な人材育成とキャリア開発 【事業の柱】鳥取県総合文化祭の連携推進、幅広い人材育成の推進、人材育成のための機会の提供			
開催日時	平成20年11月3日(月・祝)			
会 場	米子コンベンションセンター 多目的ホール			
入場料・参加費 (友の会・団体)	一般2,500円 (2,000円)	中・高校生1,000円	こども(3歳以上)500円	
集客状況	入場者数 1,508名	設定席数 2,004席	集客率 75.2%	
事業費状況	予算額	収入 1,950,000円	支出 10,313,000円	収支比率 18.9%
	決算額	収入 4,746,000円	支出 9,600,895円	収支比率 49%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・沢山の曲が聴くことができ良かったです。昨年のベートーヴェンも聴きました。今年もテンポ良く進んで楽しく聴きました。トルコ行進曲の聴き比べ、アキラさんの合唱曲良かったです。第九のことは知らない事だったので解かって嬉しかったです。 ・どこに行くにも子供づれなので、クラシックのコンサートにはなかなかいけなかったのですが、今日は子供も楽しめる内容のようだったので来てみました。久しぶりに素晴らしい演奏が聴けて、清々しい気分になりました。家でもCDで聴くばかりだったので、生の演奏を子供にも聞かせることが出来て良かったです。 ・本当に楽しかった!! 鳥取県出身の方々が集まるコンサートってなかなかないので!! もっと聴きたいなあ~と思いました ・米子西高のミニコンサート楽しく聴かせていただきました。みなさん笑顔で心から音楽を楽しんでおられるようで、いいなあと思いました。アキラさん、声優の方のパフォーマンスは素晴らしいです。サイコー!一昨年と去年の内容のミックスかなと思いきや合唱がついてふくらみましたね。第九はすごい迫力でした。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <p>年々開催するごとに入場者が増え、昨年度の入場者数を上回り、顧客満足度は、80パーセント以上であった。小さな子どもを持つ親の方から大変好評で、一定の成果を上げることができた。親子で鑑賞できる本物の芸術鑑賞・体験のニーズに応えることができた。</p> <p>・早い時期での広報の取組ができた。</p> <p>[課題]</p> <p>・3年間継続したこの事業の成果を次年度以降にも引き継ぐことが必要</p>			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <p>・なかなか出演機会のない鳥取県出身者の演奏者の演奏機会として有効である。また、普通のコンサートにはなかなか行きづらい子供たちが本物の音楽に触れる機会として重要である。</p> <p>・「地元出身者」は吸引力になるし、宮川彬良というネームバリューのある人でさらに観客をひきつけることができた。</p> <p>・音の動物園では高校生が積極的に動いており好感が持てた。</p> <p>[課題]</p> <p>・担当者の苦労は相当のものと思われる。それぞれの目標を達成する手法はこれだけではないと思う。無理のない方法を検討してほしい。</p> <p>・この事業の成功したポイントをもう少し抽出し、それを元に、新たな事業展開をきちんと構築すべき。「着眼点」や「ニーズ」という面が重要。</p> <p>・崇高な音楽の後に「マツケンサンバ」はいただけない。</p> <p>・今後は地元アーティストが責任を持って主体的に出演できる場面が必要</p>			
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の鑑賞者・実践者を育てるためにも親子向けの継続事業を検討。 ・県出身アーティストが主体となって広く活躍できる場の提供。 ・事業推進において負担が大きいため、チーム制を確立し、事業進捗していくべき。 			

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	第2回知事賞受賞者コンサート		助成	文化庁			
目的・内容	平成17年度から19年度にかけて開催した、人材発掘オーディションでの知事賞受賞者3名（ピアノ・声楽・チェロ）が、プロ・オーケストラ（大阪センチュリー交響楽団）と共演する受賞記念演奏会。当事業の開催により、出演者のレベルアップはもちろんのこと、地元の優れたアーティストが県民に認知され、それが県内のクラシック音楽活動の活性化、文化の向上、次世代の音楽家の育成に貢献することを目的とする。 【使命】「多彩な人材育成とキャリア開発」「文化人口の拡大とレベルアップ」 【事業の柱】「人材育成のための機会の提供」「県出身の人材を活用した事業の推進」						
開催日時	平成20年11月16日（日）開演18:00						
会場	倉吉未来中心 大ホール						
入場料・参加費 （友の会・団体）	一般前売:2,000円 （1,500円）	一般当日:2,200円 （1,700円）	高校生以下500円				
集客状況	入場者数	501名	設定席数	1,218席 集客率 41.1%			
事業費状況	予算額	収入	955,000円	支出	9,049,000円	収支比率	10.6%
	決算額	収入	2,776,400円	支出	7,217,498円	収支比率	38%
来場者アンケート （主なもの）	<ul style="list-style-type: none"> ・何回かコンサートは見ていますが、その中でも1番迫力が凄かったかもしれません。とてもいい演奏をありがとうございました。 ・久しぶりに音楽に酔い、気分が良くなりました。地元出身のアーティストのご活躍に感動しました。うれしかったです。 ・若い人たちの新鮮な音楽を楽しめた。もっと多くの音楽を目指す人達が陽の目を浴びることができるようにと願っております。 ・地方でオーケストラの演奏会を聴く機会は少ないので、今回の催しは大満足。地元出身とはいえ、レベルの高い独奏者の出演で大満足。 ・鳥取県にもこんなに素晴らしい演奏家がいらっしゃるのかと感心し、誇りに思いました。これからも素晴らしい演奏家の発掘に心がけてください。素晴らしい演奏会でした。チェロ、ソプラノ、ピアノどれも良かったです。オーケストラも素晴らしいかったです！ 						
1次評価 （内部）	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者（受賞者）にとっては、プロ・オーケストラとの共演という個人では実現が難しい機会を提供することができ、さらなるレベルアップに貢献することができた。また、その受賞者を広く県民に周知することができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞を伴う財団の育成事業に対し、地域（企業、公共団体等含む）の理解・協力など、新たな運営体制の確立が必要である。 ・県民有志に制作段階から関わってもらうようにするなど、県民による県民のためのコンサートという位置付けにしていくことも選択肢のひとつかもしれない。 						
2次評価 （財団評議員）	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような取り組みは全国的には珍しいものであり、挑戦する演奏家は勿論のこと、晴れの舞台を聴きに集まった人たちを含め、将来を期待されるであろう地元出身の若き演奏家の存在を広く知らしめる最高の場である。 ・学生の来場者も多く、音楽を志す人たちにとって励みとなり良い刺激になると思う。大きな節目として、通過点としてうまく対応し、将来に生かしてほしい。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の手によるコンサート（オケも自前といういみ）が出来るようであれば、何も問題はないが、このことは、将来にわたって難問であると思われる。考えられることは、今回のようなフルオケでなくても、もっと小規模の室内乐的なオケで対応できないか、検討してみたいかがだろうか。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・知事賞受賞者に留まらず、鳥取県出身・在住の人材を人財へ変えていくよう、地元アーティスト支援及び活用した事業を展開していき、鳥取県との結びつきを強める。 ・チケット販売の難しい育成事業において、地域との連携強化等、販売手法を確立していく。 						

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	平成20年度 鳥取県演劇創造事業 ①「頭の中の千匹の蜂」②「鯨を捕る」		助成	地域創造			
目的・内容	演劇を学ぶ場を提供する事で、県内演劇人のレベルアップを図る。また、作品を公演することで、演劇愛好者の裾野の拡大を図る。更に、平成19年度戯曲講座にて生れた鳥取県オリジナル戯曲を上演する。 【使命】文化人口の拡大とレベルアップ、多彩な人材育成とキャリア開発 【事業の柱】文化活動実践者との協働による自主企画と自主制作の事業推進 県民が気軽に創造的自己表現ができるような会館施設の開放と事業参画の推進						
開催日時	【東部】平成21年1月24日(土)・25日(日) 【西部】平成21年3月7日(土)・8日(日)						
会場	【東部】鳥取市民会館 【西部】米子市文化ホール イベントホール						
入場料・参加費 (友の会)	一般1,000円 (900円)	大学生以下500円	※当日500円増				
集客状況	入場者数	687名	設定席数	1,236席			
			集客率	55.6%			
事業費状況	予算額	収入	685,000円	支出	14,780,000円	収支比率	4.6%
	決算額	収入	6,644,700円	支出	12,894,790円	収支比率	52%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・時代を超えて、あの頃を思いつつ、今の私達に残された宿題を感じました。 ・鳥取に関係するテーマ、作者の活動こそが、鳥取を活発にさせると思う。続けてほしい。 ・今日のような演劇は初めて見せて頂きました。音響も照明も、演じておられる方の息づかい、涙をそばで見られ、とても新鮮で良かったです。 ・外が寒くて大変だったんですが、早めに中に入れて頂いて、嬉しかったです。 ・度々、開演時間やマナーなどの案内をされたこと。聞きやすかったし、心構えが出来てよかったです。 ・是非、再演してください。3回じゃもったいない。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代から高度成長期を捉え直し、現代社会や現代人がその時代に喪失したものを問い、見つめ直す公演を行った。特に当時を経験している年代層に共感を得る事が出来た。 ・戯曲で取り上げた時代の写真を使用したチラシを作成し、その年代の興味・関心を引く広報を展開した。結果として、ターゲットの40～60代が全体の56%を占めた。 ・参加者の自立意識が高まり、自力での再演準備や身体トレーニング計画が持ち上がった。 ・スタッフを地元業者の方に依頼する事で、作品創造に係わる機会を提供した。結果、地元演劇活動者とのネットワークも構築され、終了後に新たな創造活動の実施に結びつける事が出来た。 ・観客への見せ方を検討した結果、アンケート満足度71%という高い数値が確保出来た。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の戯曲講座を経て公演準備に入ったが、実際の上演台本の決定稿が出来上がったのは公演間近であった。各所に支障が出た為、今後、戯曲講座を開催する際、制作期間の検討が必要である。 ・当財団の演劇の鑑賞者は400名程度である。今後、収支差額を抑える為にも観客創出の工夫が必要である。 ・「分かり易い」「楽しい」演劇に対する一般的な評価が高い。しかし、人材育成の観点から考えると、必ずしも明快な作品を選定できるとは限らない。その旨、周知徹底し、理解を求めめる必要がある。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演内容は今までで一番良かった。なんといっても演出が素晴らしい。特に「鯨」には感動した。舞台装置も良かった。脚本も演出家が大幅に手直した結果、大変心を揺さぶるものになった。 ・逆に言えば、すべて演出家の能力に頼ってしまったといえなくもない。しかし、過去の演劇創造事業の中では、両公演が(蜂、鯨とも)最も良かった。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役者の技量不足。熱意は伝わるのだが、日ごろのトレーニング不足がよく分かる。 ・助成金を除いても600万円以上の持ち出しで行う事業であり、育成とはいえ、入場者率の設定が60%、満足度目標70%では甘い。 ・担当者の自己評価にもある通り、2-3年をかけて、出演者への負担軽減が必要。(決まった時間内で作品を仕上げるのも大切) ・何百万円もかけて育成してきた役者たちが、今後、どのように地域の演劇シーンに還元していくのか(あるいは、いけないのか)、財団には見届ける責任がある。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、演劇活動者の育成と関係者の拡大に継続して取り組み。 ・鑑賞者拡大のため、演劇に親しむ環境づくり。気軽に参加できるワークショップや鑑賞公演と連動させたプロジェクトなどを実施し、新たな鑑賞者の開発に努め、地元演劇公演への鑑賞者へと繋げていく ・劇作家の育成、演劇愛好者の裾野の拡大、次世代演劇リーダーの育成のためのトレーニングを実施。 						

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	宝塚歌劇 星組公演			
目的・内容	使命のうち、「文化芸術活動の発信と交流」に該当。 日本国内で高い人気を誇る宝塚歌劇団による一流の歌劇を招聘することで、老若男女を問わず本物の舞台を鑑賞し、舞台芸術の素晴らしさを体感する機会を提供する。併せて財団友の会の会員拡大を図る。			
開催日時	平成20年11月11日(日) 昼の部 開演14:00 夜の部 開演18:00			
会場	倉吉未来中心 大ホール			
入場料・参加費 (友の会)	S席一般6,500円 (6,000円)	A席一般5,000円 (4,500円)		
集客状況	入場者数 2,126名 〔 昼の部:1,038名 夜の部:1,088名 〕	設定席数 2,994名 (1,497席×2)	集客率	71.0%
事業費状況	予算額	収入 302,000円	支出 680,000円	収支比率 44.4%
	決算額	収入 376,300円	支出 472,558円	収支比率 80%
来場者 アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・迫力のある公演でした。ストーリーもすばらしかった。本公演に行きたくても行けない私には、地元に来てくれるのを楽しみに待っていました。地方だからって手抜きのない公演に夢の時間が過ごせました。 ・車椅子の方への対応も暖かく、土地の方皆さんで星組の公演を受け入れている暖かい雰囲気がとても素敵でした。 ・初めて宝塚を鑑賞しました。なんとなく自分とは縁遠い存在で見た事がありませんでした。とても興味深く鑑賞させていただきました。ものすごくファンになりました。 ・40分遅刻して来たのですが、親切な対応でもとても気持ちよくみる事が出来ました。 ・男性トイレも女性用にされて、良かったです。近くにコーヒーもとてもGOOD!! ・携帯電話の音や、となりの親子の私語でちょっと台無しでした。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早い段階で広報を開始し、チラシ裏面に入会申込用紙を印刷し配布した結果、友の会の会員拡大につながった。先行予約枚数は平成17年度公演を上回ることができた。 ・収支バランスの向上のため、東部と中部に集中して販促を行った。目標を大きく上回ることができた。 ・家族・友人・夫婦での来場を促せた。 ・共催相手との連携・役割分担も円滑に行えた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団に西部のチケット販売窓口がないため、西部の販促を見合わせざるを得なかった。共催の場合、止むを得ないが、改善できるとよい。 ・「ベルばら」という有名作品であっても、平成17年度公演より入場者数が伸びなかった。同じ団体を繰り返し招聘することが難しい地域性が表れた。 			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉吉で“非日常”が味わえる。質的にも十分良かった。歌、踊り、表現力、ステージ、やはり質が高い。鑑賞後、十分満足感があつた。 ・顧客の開発については、成果が見られたと判断できる。 ・主婦、女性、一定の年齢層が多く、想定した観客層をターゲットとした公演として成功している。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度の同歌劇団の公演時よりも入場者数が減少していることは課題。 ・共催が日本海テレビであったことのメリットが表面化していなかった。 ・販売促進のための成果につながる効果的な方法の検討が必要。 ・友の会の方々の意見どの程度まで意向を考慮するのか。組織として成り立つか。更に集客につなげる方策の検討。 			
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客開拓方法の抜本的な見直しが必要。 ・マスコミとの共催は、収支比率が高いため、公演内容を勘案の上、今後も行っていく。 ・協力体制を維持できるよう、今後も地域のマスコミ等とのよりよい関係を維持していく。 ・本公演による友の会拡大は図られたが、継続的な支援者としての会員の獲得など、友の会全体のありかたやニーズ分析を行っていく。 			

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	開館15周年記念事業 松竹大歌舞伎						
目的・内容	県民文化会館の開館15周年記念事業として、一流の歌舞伎役者による「歌舞伎公演」を開催することにより、古典芸能への関心を高め、更なる愛好者、鑑賞者人口の拡大を図る。						
開催日時	平成20年11月18日(火) 開演14:00						
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール						
入場料・参加費 (友の会)	特等席6,000円 (5,000円)	一等席5,000円 (4,000円)	二等席3,000円 (2,500円)	三等席2,000円 (1,500円)	foreigner 1,000円	大学生以下 (指定席) 1,000円	大学生以下 (当日指定) 800円
集客状況	入場者数	908名	設定席数	1,604席	集客率	56.6%	
事業費状況	予算額	収入	8,686,000円	支出	15,271,000円	収支比率	56.9%
	決算額	収入	4,139,500円	支出	8,511,446円	収支比率	49%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・大変おもしろかった。歌舞伎は堅苦しいものと思っていたが、間違いだった。今後も鑑賞したい。 ・役者の口上の絶妙の間合い等、迫力・躍動感があり楽しく満足した。 ・是非一度は観てみたいと思っていた歌舞伎。念願かないました。敷居が高く、もっと難しいものと思っていましたが、とても身近に感じられ、楽しませて頂きました。イヤホンガイドを借りたのも良かった。機会があればまた出かけたいと思う。 ・Café SOURCEや宝月堂とのコラボはとても良いアイデアだったと思う。係の方の対応もていねいで良かった。 ・満席になっていると思ったが、後席に空席がありPRが足りないのか、文化度が低いのか、折角の公演であり残念です。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラボカフェからのお客様、日本海新聞でのコラム連載で関心を持ってくださったお客様というように今までと異なる客層の取り込みが少しながらできた。コラム連載により、敷居が高いと思われがちな歌舞伎を作品の内容からひきつけることができた。 ・歌舞伎公演には格安の料金設定を行い、特等席は完売となった。 ・カフェの設置と着物展示を行ったことにより、観劇に付加価値を付けることができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報等にも努めたはずなのだが、まず行ってみようというモチベーションに至らない。きっかけづくりをどうするか課題である。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に古典芸能への関心を持ってもらう手法が良く、新しい試みのカフェテリアなど、心とむ空気をつくりもお客さまからも好評だった。 ・カフェとの連携、着物展示、国際交流財団への働きかけなど、積極的に事業が推進されたと評価できる。 ・公演のクオリティは高く、記念事業としての華やかさも、意義のある事業だった。 ・古典芸能を多年層に拡大するにつき、良い糸口が発見、発信できた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎が敷居の高いものとして誤解されている。もっとくだけた内容の紹介の仕方は考えられないだろうか。 ・焦点を絞り込んだ集客対策、アピールも必要ではないか。若年層の集客については、より具体的な方策の検討が必要ではないかと思う。 ・「演目の選定」が重要である 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き古典芸能を財団の鑑賞事業の柱として継続実施していくものであるが、若者等の次世代の鑑賞者をどう取り込むか、今回のカフェでのPRのような色々な試みをしていくことが必要である。 ・プレ事業を開催するなど、減少傾向にある古典芸能の鑑賞者層の拡大に努めていく。 ・大学生、高校生などに働きかける取り込みを実施し、若年層の集客を目指していくことが必要である。 ・コラボカフェ、国際交流財団など新しい角度からのアプローチは、今後も重要であり引き続き行っていく。 						

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	東京演劇集団 風「Touch～孤独から愛へ」						
目的・内容	平成20年度事業計画書による具体的方針「福祉と国際等の領域との文化の融合」に基づき、演劇公演と福祉施設でのワークショップを行う。 また、優れた演劇公演を通して演劇人口の拡大を図る。 *ワークショップ … 11月9日実施済						
開催日時	平成20年12月7日(日) ①午前 開演11:00 ②午後 開演15:00						
会場	とりぎん文化会館 小ホール						
入場料・参加費 (友の会・団体)	一般3,000円 (2,500円)	高校生以下・ 身障者(介助者) 1,000円	※当日500円増				
集客状況	入場者数	173名	設定席数	500席	集客率	34.6%	
事業費状況	予算額	収入	1,500,000円	支出	2,635,000円	収支比率	56.9%
	決算額	収入	268,000円	支出	2,424,820円	収支比率	11%
来場者 アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・3人でこれだけ伝えられるすごさを感じました。子育て、仕事をする上で大いに参考になりました。 ・内容のある演劇でよかった。脚本が良いと思った。最後は涙が出ました。 ・役者さんの素晴らしいチームワーク。何度でも観たいと思った。 ・一度の公演で、席が埋まった方が良いのでは。 ・当日券が500円UPになるのはいかがなものか。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの満足度も高く、来場者の感想も好評であった。 ・福祉及び高校演劇のワークショップ参加者も含めた新規顧客の開拓を狙って、幅広く広報に努めたが、当初見込んでいた集客に至らなかった。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度が低い劇団・作品における、既存の演劇鑑賞者層及び新規顧客層の拡大。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代が抱える孤独について、作品は平明に訴えており、好感が持てた。 ・福祉に関連したワークショップを行なったことは重要である。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の努力も十分に理解できるが、肝心の学校や演劇関係者に届かない。そういう風土が鳥取に定着している。教育・行政・市民で連携プレーの方策の検討。 ・地元のレベル・アップを図り、演劇の面白さ・楽しさを市民に提示すること。幼少時からの「鑑賞体験」、高校などの「創造体験」がカギ。 ・有名な俳優の出演・演目と娯楽性のあるものを考慮。 ・もう一度、「演劇」で鳥取の人に何を伝えるべきかを再考。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・同一日における、地元文化団体のプロ演劇招聘公演との重複がないように配慮する。日程の調整。 ・演劇においては、まず認知度が高くニーズのある作品の上演を重ね、演劇鑑賞者層を確保した上で、この様なマイナーであるが上質の作品上演という流れで、基盤を構築する。鑑賞者開拓の長期的なヴィジョンに基づいた順序立てが必要。 						

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業				
事業名	人形劇団クラルテ「11ぴきのねこ ふくろのなか」						
目的・内容	親と子が共に育つための文化芸術による体験機会の提供を目的とした事業。 この作品「11ぴきのねこ」は、馬場のぼるの代表作で、絵本を読んでいる親子も多い。人形劇団クラルテは、60周年を迎える歴史ある人形劇団であり、親子で本物の舞台に触れる機会を提供する。						
開催日時	平成21年3月1日(日) 開演14:00						
会場	境港市民会館						
入場料・参加費 (友の会・団体)	大人2,500円 (2,000円)	高校生以下(4歳以上) 1,000円 (900円)					
集客状況	入場者数	713名	設定席数	1,143席			
			集客率	62.4%			
事業費状況	予算額	収入	1,210,000円	支出	1,746,000円	収支比率	69.3%
	決算額	収入	1,162,800円	支出	1,341,419円	収支比率	87%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本も面白いので人形劇もとっても楽しみにしていました。子どもとっても楽しかったと満足していました。終わった後の裏話も面白かったです。また観てみたいです。 ・かわいらしい11ぴきのねこに、癒されました。気がつく『青い空～白い雲～』とロずさんでいました。楽しい時間をありがとうございました。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの楽園事業で構築したネットワークを活かして松江・米子・境港に販促すると同時に、幼稚園や保育園に直接訪問販促(事業説明)を行ったことで新規顧客獲得につながった。 ・鑑賞公演にワークショップ等を運動させたことにより、より効果的に新たな鑑賞者開発とリピーター育成に繋げることができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身障者に対する配慮・販促不足(手話での対応は行った。車椅子席を準備したものの利用はゼロ)。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん親子が鑑賞できたことはとても良かったし、ホールへ足を運ぶきっかけにもなった。 ・協力団体などの役割分担もよく、うまく運営されていた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢的に1・2歳の子供は楽しめていただろうか。後ろの席の子供の泣いたり、ぐずったりする声が聞こえた。 ・作品の規模と年齢については、かなり深く追求する必要がある。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の感性を磨き、文化や芸術に対する関心を高め、親子の絆を深めるためにも、親子・家族一緒に鑑賞できる公演を今後も関係者と連携を取りながら、継続的に行っていく。 ・今事業の推進プロセスを、一般向けの公演にも活かしていくようにする。 						